

浸水被害に備えて！！

近年、集中豪雨や台風の上陸により下水の排水能力を超える雨が降り、道路冠水や半地下で地面と段差のない建物に浸水被害が発生する可能性があります。

このような場合、被害をもたらす雨量が比較的短時間に集中することもあるため、非常事態になってからではなく、事前の備えをしておくことで被害を最小に抑えることができます。

江東区では浸水被害に備えて、希望者に土のうを差し上げておりますので、希望する場合は下記までお問い合わせ下さい。

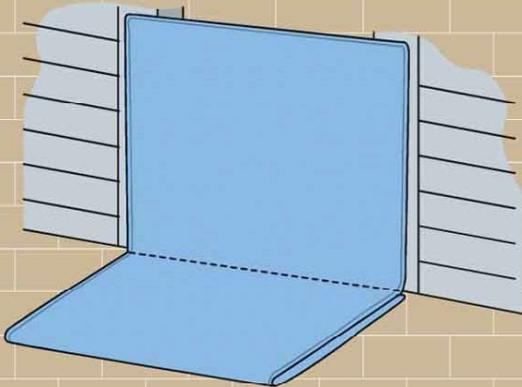
お配りする土のうの中身は、山砂が詰まっており、砂が水を吸い重くなることにより隙間をなくし水を止める効果があります。しかし、にじんだ泥水が周囲を汚してしまうという側面もあります。

については、土のうの積み方について説明いたしますのでご参照ください。



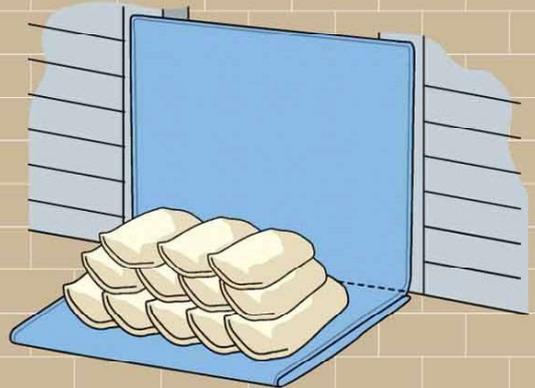
①シートの用意

ビニールシートもしくはゴミ袋等のビニール袋の2方向を切断し貼り合わせ、半分を間口に広げ、半分は立ち上げ用とします。



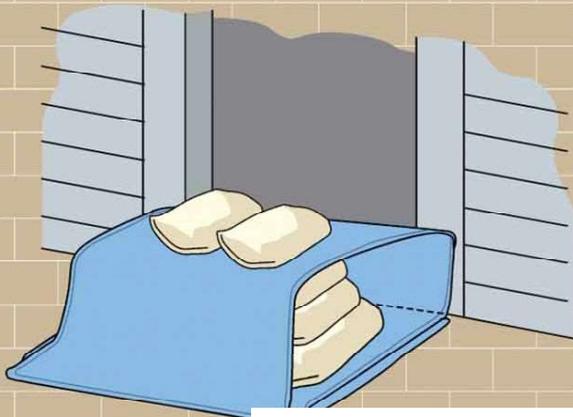
②土のうの積み込み

土のう袋の結び目を手前とし、2番目以降は5cm前後重ね合わせて並べ、最後に袋を踏みつけ隙間をなくします。2段目以降は1段目に重なるように並べ踏み固めます。



③シートの立ち上げ

土のうが積み上がりましたら、立ち上げ用に余らしたシートで包み、固定します。



④水が引いた後

水に浸かった土のう袋は、自然脱水します。土のうを使用する可能性がなくなりましたら砂は庭に蒔き、袋は燃えるゴミとして出してくださいようご協力下さい。



- ・土のうの保管について
地面に直接置くと虫が発生したり、袋が劣化しますので、ブルーシート等で包み、下にヌノコ等を敷いて保管して下さい。
- ・土のうの処分について
区では回収を行っておりませんので、各自で処分をお願いいたします。
(清掃事務所でも収集処分出来ません)

豪雨時の地下空間

豪雨時に地下空間に居ると地上の状況が判らず、閉じ込められる事もあります。気象情報に注意し、浸水の危険がある場合にはすみやかに地上にあがって下さい。



敷地が道路より低いと、敷地に降った雨を排水しきれずに浸水することがあります。一旦溜まった水はなかなか排水できません。



地上が冠水するとあらゆる所から一気に水が流れてきます。

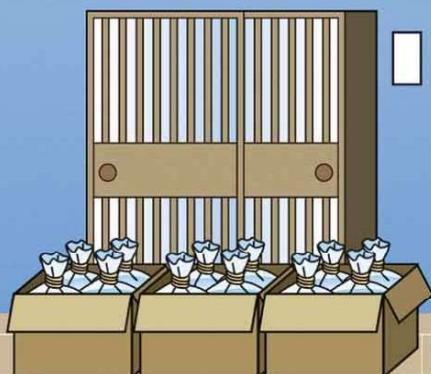


流れ込んだ水圧でドアは開かなくなります。

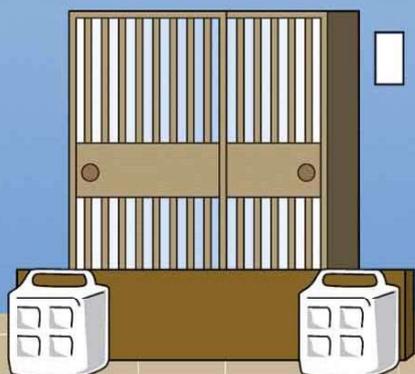


階段を流れ落ちる水の深さが増すと、階段を上ることが困難になります。

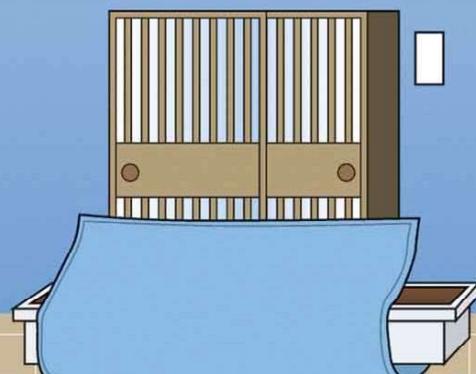
家庭でできる水防工法



厚手のビニール袋に水を入れ、玄関等の入口に土のうの代わりに使用します。並べた段ボールに水の中を入れる方法もあり、強度が増し、水の中も積み重ねられます。



長めの板などを利用して浸水を防ぎます。



土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込み使用します。